

看護における システマティックレビュー

EBP(evidence based practice)という言葉は、わが国でもかなり定着しているように思われます。目下看護研究においては、看護実践に寄与するエビデンスの創出と確立をめざすとともに、それを現場とどのように協働しながら、どのように臨床現場に適用し根づかせていくかが大きなテーマとなっています。

システマティックレビューは、そうしたEBPのプロセスの中でも重要な役割を占めています。研究を進めていく上で、「何が明らかになっていて、何が明らかになっていないのか」を検証するためにもきわめて重要なステップであり、国際的にみても昨今欧米やアジア諸国の一部において、博士課程の研究を行なう前にまずはシステマティックレビューの実施が課されるといった動きもあります。

わが国でも、システマティックレビューに対する関心は以前から高かったと思われませんが、昨今ますます、看護におけるシステマティックレビューについて考える必要性が大きくなっているように思われます。

その中で本年3月、公益社団法人日本看護科学学会主催により、「エビデンスを統合する—システマティックレビューとメタ統合」と題するセミナーが行なわれました。本号では、システマティックレビューをめぐる気運の高まりから本セミナーにヒントを得て、特集を企画しました。システマティックレビューの基礎やそのプロセスを大きく紹介し、そして、近年関心の深まる質的研究のシステマティックレビューについて、その現状と動向を探っていきます。

企画：『看護研究』編集室